ふるさと尺の内公園オニバス維持管理からわかってきたこと

三浦 憲人（ホシザキ野生生物研究所）

雲南市木次町にあるふるさと尺の内公園では，絶滅危惧種であるオニバス *Euryale ferox* Salisb.の系統維持のため管理を行っている．オニバスはやや富栄養化した泥深い池沼や用水路に生育する１年生の浮葉植物である．

第１回ホシザキ野生生物研究所研究報告会にて報告したオニバスの知見とその課題について，その後の維持管理からわかってきたことを報告する．

① 種子の発芽について（図 1）

種子の発芽は翌々年の春から発芽率が高くなるとしていたが，翌年の春であっても発芽する年もあり，必ずしも翌々年の春が最大の発芽率になるとは限らなかった．そして，2011 年と 2012 年に採取した種子は，すべて発芽をした．これらの種子の発芽に要した期間は，2011 年の種子では 7 年，2012 年の種子では 5 年であった．

② 多くの種子を得るための栽培について（図 2）

葉の直径の最大は 2019 年度に 153cm を記録した．各株の葉の最大直径と果実の大きさを調査したところ，葉の直径が大きくなるほど，果実が大きくなる傾向が見られた．また，大きな果実により多くの種子を確認することができた．つまり，大きな葉を持つ株を育てることで，より多くの種子を確保することができると考えられる．

そして今後も，多くの種子を確保するため，より大きな葉をつける栽培方法を検討していくことで，一年草であるオニバスの系統維持を継続していけるように努めたい．

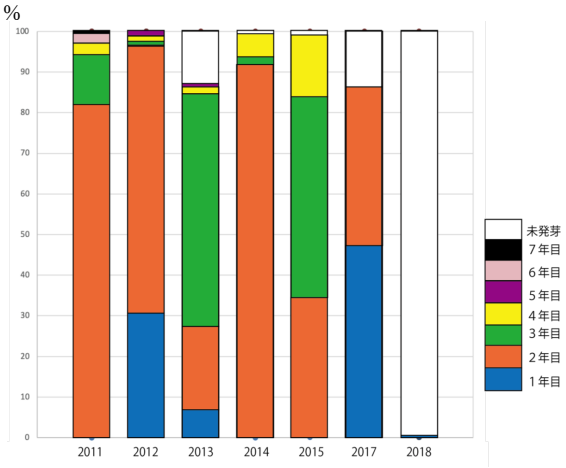

図１　各年採取種子の発芽割合

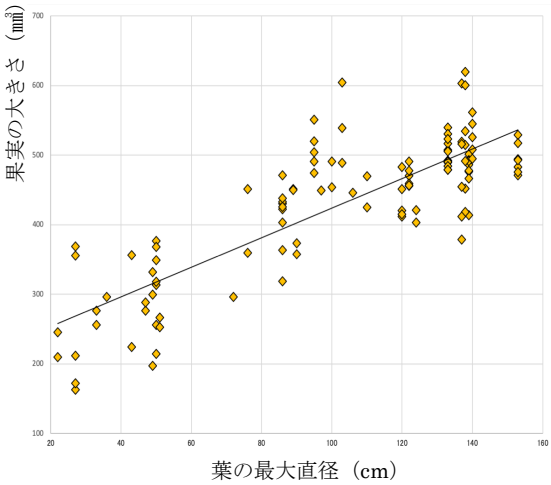

図２　葉の最大葉と果実の大きさの関係